

子どもコース ニュース

第4号

日本ヴィパッサナー瞑想センター：京都府船井郡京丹波町八田岩上奥 電話：0771-86-0765

日本ヴィパッサナー協会

2006年3月発行

六人のコース

参加者は、少なかつたけれど
パワフルなコース

2005年11月20日にダンマバーヌめいそうセンターで子どもコースが開かれました。参加者は、男の子一人と女の子五人で、合わせて六人。

はじめての参加者は女の子三人。いちどコースを体験している古い生徒は、男女合わせて三人。参加者の平均年齢は、十歳でした。

前の列でしっかりする先輩の生徒にみならって、はじめての生徒もみごとにすわりました。はじめての参加者でいちばん年下のけーちゃん（仮称）は、すわりはじめのころ、「おかあさんはどこー」と、心ぼそいようすでしたが、二回めのめいそうからは、おちついてすわることができたようです。

今回のお話タイムは、インドに昔から伝わる「真実のちから」。世話役の人たちの熱演による劇でしようかいしました。

また創作タイムは、ざぶとんカバーのお絵かき。白いざぶとんカバーに、それぞれ好きな絵をかいて、世界にただひとつのめいそう用ざぶとんカバーを作りました。



真実のちから

むかし、砂漠の隊商が、追いはぎにおそわれたことがあります。追いはぎに追いはぎたちは、旅人のひとりひとりの持ち物をしらべて、だじなものをつとりあげてしまいました。

その旅びとの中に、男の子がひとりおりました。その子は、古い布の袋をもっておりました。追いはぎたちは、その子の袋を見つけると、やはりよくしらべました。ところが中にあるのは、古くて使いものにならない布が数枚のみ。

追いはぎたちは、なぜそのようなぼろきれをもち歩いているのか、男の子にたずねました。

その子は、その布にお金があいづけてあるのだとこたえました。おどろいたのは、追いはぎたちです。

「もしもおまえが、お金を、おれたちからかくそうとしないなら、おれたちも、おまえのお金をとるわけにはいかねえ。おい、こぞう、なんでぼろきれにぬいつけたりしたんだよ」と、たずねる追いはぎたちに、男の子は、このようにこたえました。

「お金がぬすまれないように、母がそうしてくれたのです。でも、母は、けしてうそをついてはいけなともいいません。ですから、あなたがたが、この布のことをおたずねになったので、ほんとうのことをいったのです。」

追いはぎたちは、男の子の正直さに感心し、その子のお金はかりではなく、ほかの旅人からとりあげたものもみんなかえしました。

この子は、やがて大きくなって、その国の王さまになったそうです。

このお話で語られているように、真実のちからは偉大なのです。うそにも方便というようにうそをついたほうがよいと思えるときがあるかもしれませんが、いつでも真実を、ほんとうのことをいったほうがよいのです。

アーナーパーナを学び、五つのやくそくをまもるようにどりよくするならば、どんなにむずかしいときでも、真実を、ほんとうのことがいえる強いこころをもつことができるようになるでしょう。そして、ほんとうのことがいえてこそ、人生はよい方向に流れるのです。

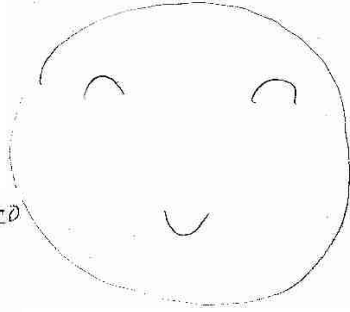


劇「真実のちから」の背景

コースの様子、子どもたちの声



メッサーをありがとう
ございました。



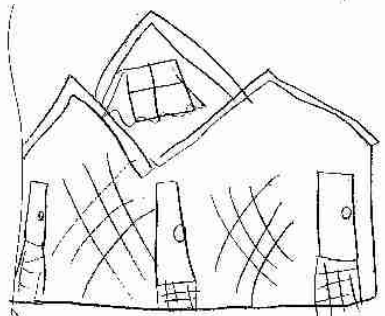
<コース終了後にご父兄からいただいたメッセージ>

—あいかかわらず、姉妹けんかや、ことばのボクシングがたえないのですが、お姉さんたちが言い合いをしていると、末っ子が「ころがおちついてないねえ」と一言。とたんに、空気が和みました。体感するという、気づきは尊いものですね。—

みんなはとても集中できているので、とてもたのしかったです。



たのしかったです。



たのしかったです。

113113

たのしかったです。

こんどはまたがり

春にまた!

とても楽しかったです。

みんなが楽しんでいるので、とてもよかったです。

「んじつのかまもほろがたし、

お兄さんおねえさん、

めさしかったです、よかったです。



子どもコースは、昨年より年 2 回開催されています。次回の子どもコースは 5 月 7 日(日)です。コースごとに、いろんなハプニングがあり、楽しいエピソードが生まれています。こんどはどんなコースになるのでしょうか。たくさんのお子たちの参加をお待ちしています!

創作タイムでは、それぞれセンスが光る。にぎやかなもの、やさしい感じのもの。さまざま。